

奥道中膝栗毛五篇

上

真珠

へ13  
1164  
65



1164  
65

奥羽道中膝栗毛五編序

詩も見えぬ席土の風俗をうけつたる。

唐人乃こそはよき。我が國ぶりの

滑稽の出来は膝栗毛のあらわしける。

このむい先師の遺志をうけし鼻毛筑を

世のり。思ひまゝ系奥羽一覽武藏

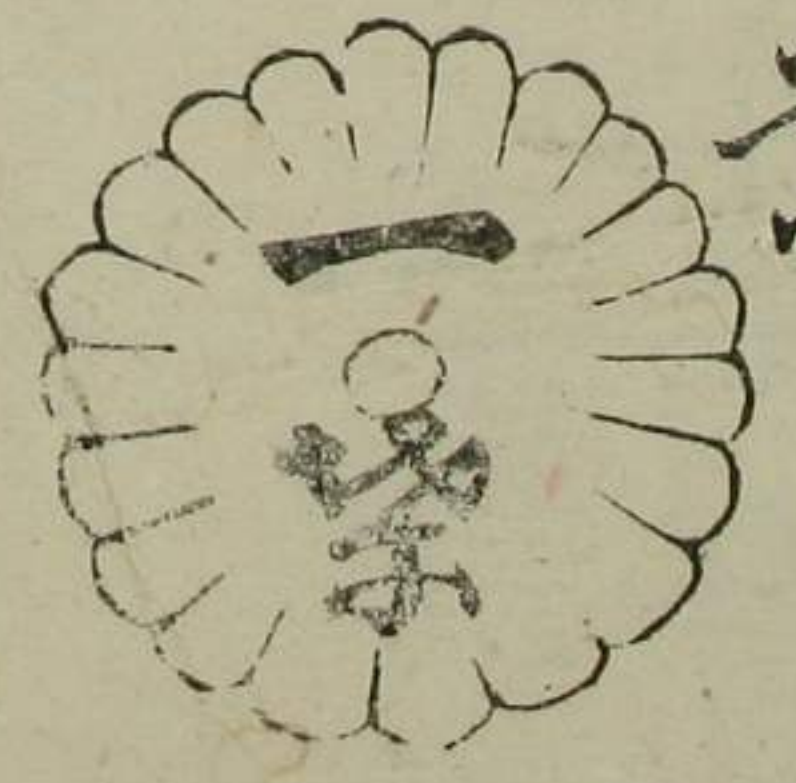






嘉永二年孟春

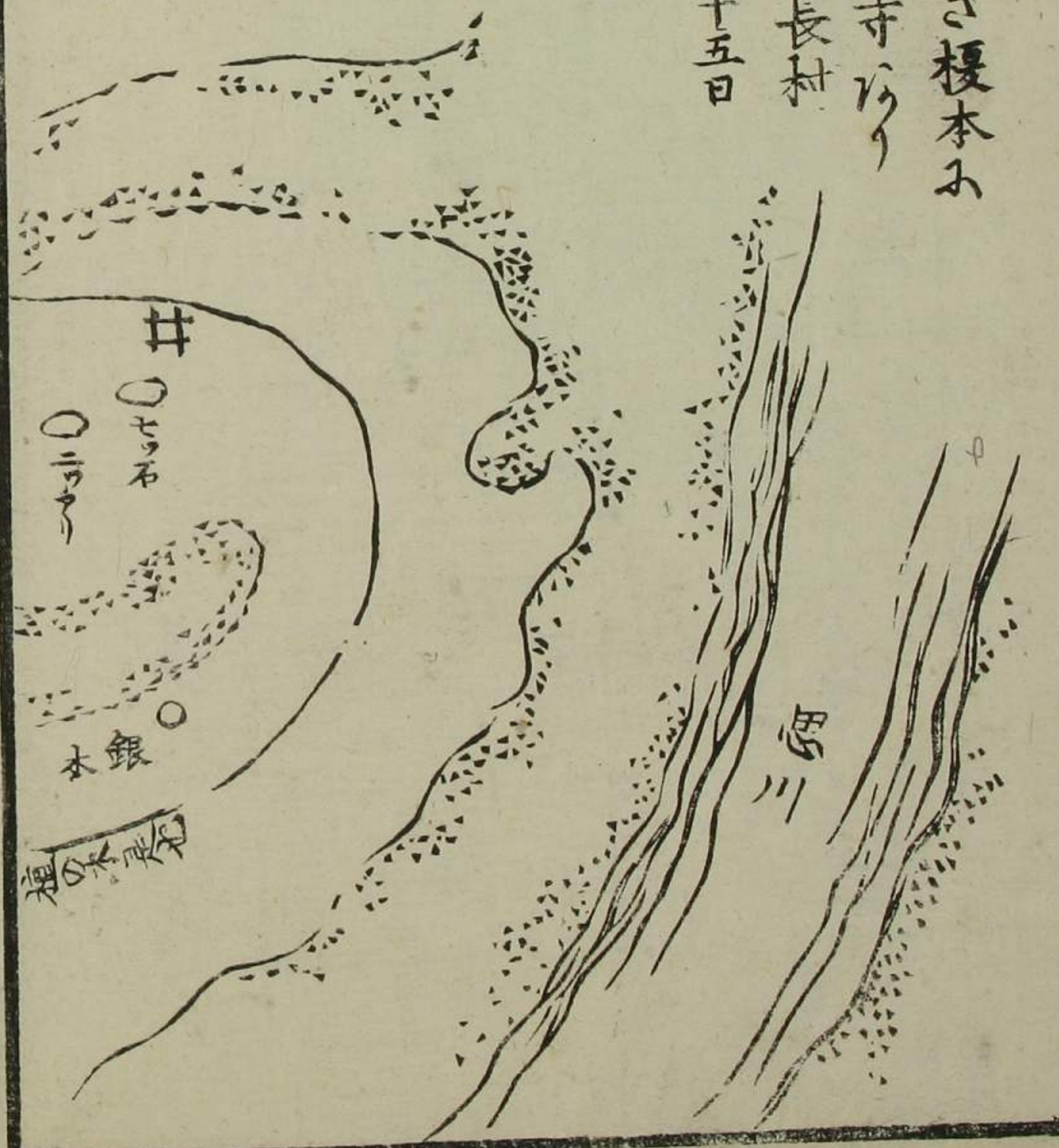
千菊園一葉



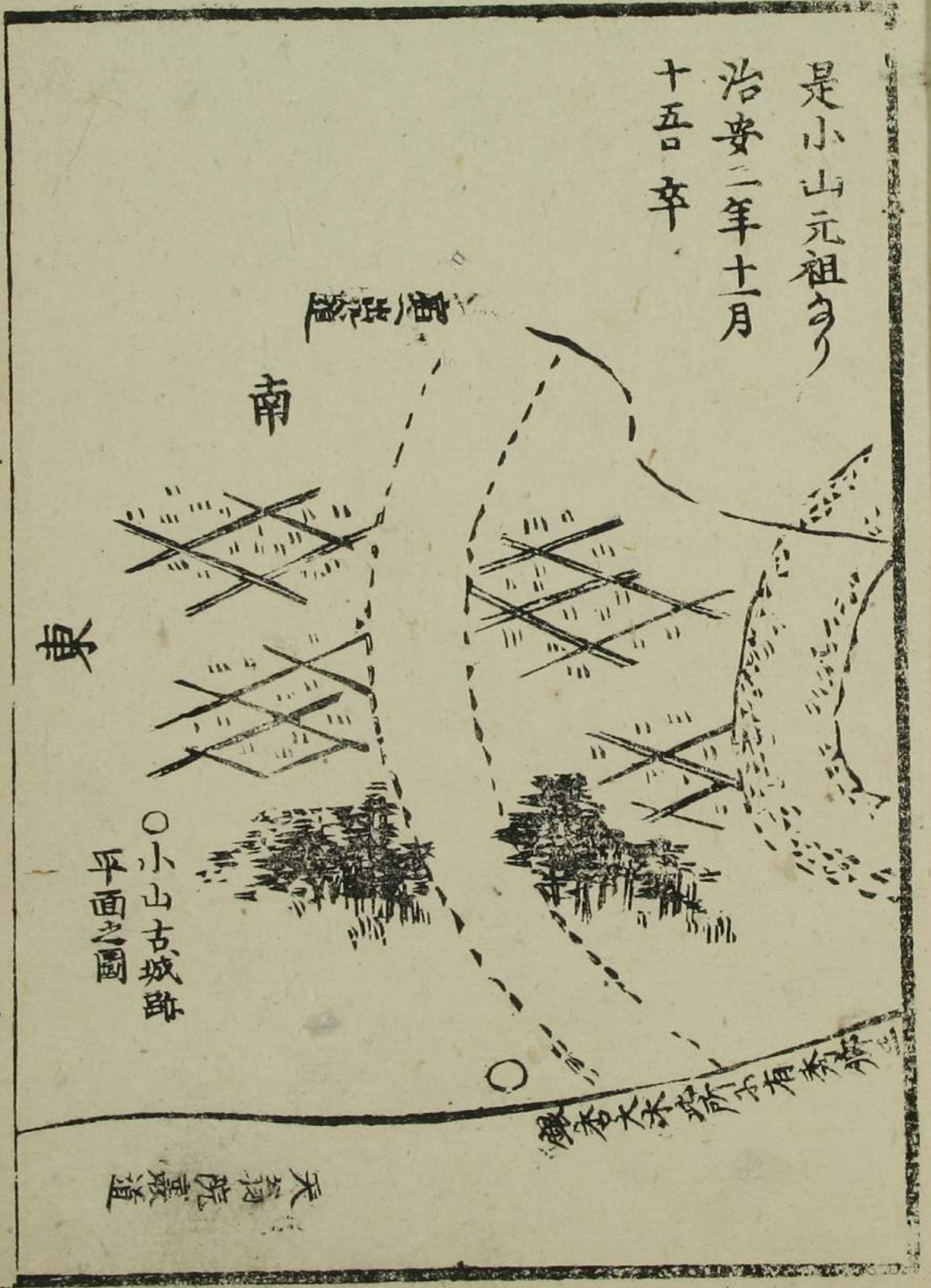
田舎川の岸邊ある落葉の  
 卷乃の甲斐はなほ  
 みちのこ

二  
五

宿より西二里先き榎本  
 大寺と云る寺あり  
 小山大膳大夫長村  
 元久元年二月十五日  
 建立し是を  
 小山家  
 代々の  
 菩提寺と云  
 小山下野寺  
 正頼太田と  
 いふ所小住を



是小山元祖より  
 治安二年十月  
 十五卒





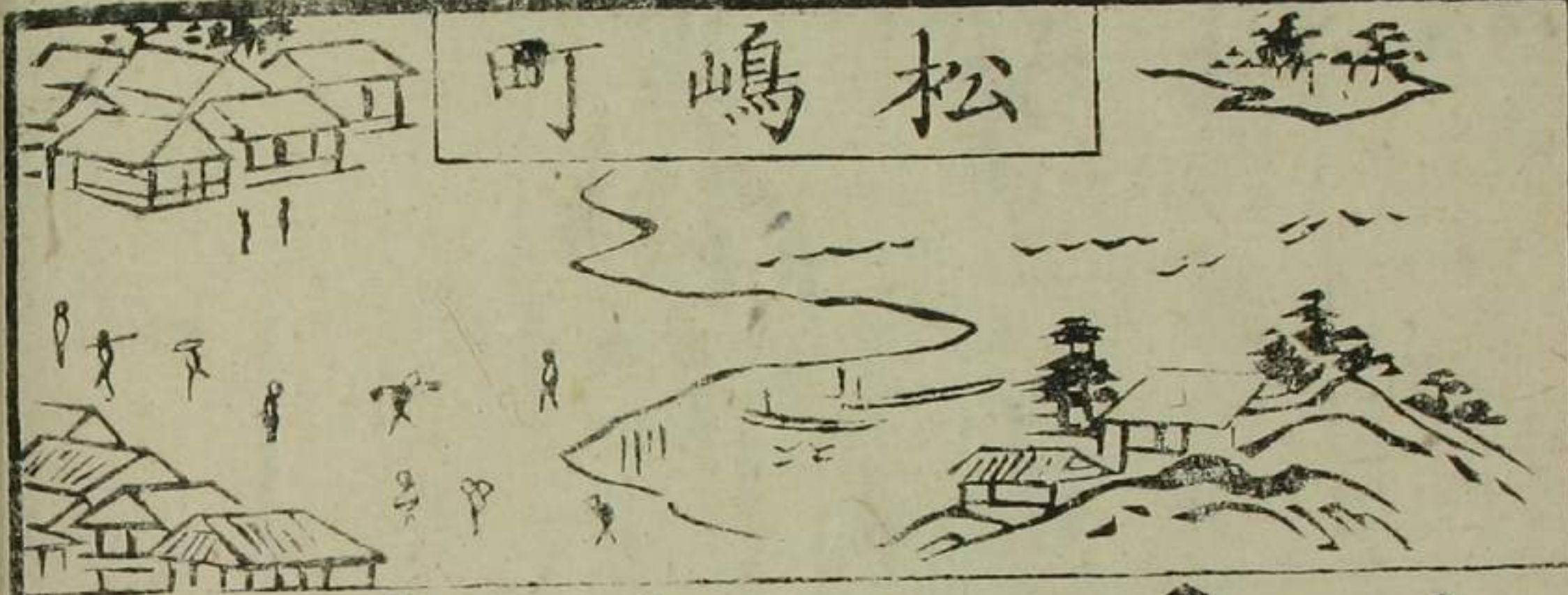
こころの  
まを  
小みり  
かきま  
かりま  
やり

仙舟  
子菊園

信子

家

松嶋町



金嶽山詣

燕石齋為墨迹

史蹟奥國今之遺蹟也

かけすき

聖武皇帝の所時函

山より物て其念城首集

と云時之探歌大伴宿禰

興覽 道中膝栗毛第五編卷之上

十返舎一九著



キヤリ 余り寒さふ松前の船取流と藤ふれバ ヨンヨフ

ヤナあつめ三抱又酒三升 園子のいりて十二匹さ戻を

船くうばんがいエかむを船くうむをエあめろヤアレヤレ

トへんてこまこまを考まんらしく大かみあげてまこる村の善いりの 善哉

しやアあひよヲさるエお百姓さるのお乃具ごやめくこるを

して手づかしてもうちさらせぬ用ひさしをよとんひより

とこ奴郎やらうの白麻まゆけおやぢぢアトちやうとききてしつとせしあはるあはハ

く、大さふ毎ふちうちふ個法こほうをいししほと余りとのお八とや男おとこダ

私わがよ過言あやまをやうけししからあはる方かたのおる具ぐとももえ

トませぬお形かたちもやささどつるひまの段だんの真平まへら免まぬ一

あはれしくさきりまあはモじく親方おやうちめつるあ兼知かねち一

ちやアいぢやせんこの弥次やじ郎らうとつゆ男おとこうさるまきつか

らその柄杓へしやでさちが頭あたまつ何なんを肥こせりけりししわや

せん代よ金かねの積つみりてるさあう余あまりどのめりてどまら

せうしん二一にく此こ奴やつとをうもわいのをぬきすまモシとの

男おとこのりよのいんま虚うそでござらぬけこの小便せうべんをさう

ろ小半せうはん柄杓へしやをさうりわけこのでござらぬ下した 二人があつてひま  
この百姓をさす

おとこを若わか者ものイ子こ主ぬしのいさど一男おとこの女をんなをばはあハあハあハあ

い各おのづか今いま朝あさまを添そ桶づくの中なかにふいあつるあつ小便せうべんが七分しちぶん

目めをりりぬるぬてしまるまるころおぢさん肥こ代よを勘かん定ぢやう一

こあう其その朱しゆやまを分わの出入でいりぢわアああののはぬぬぬく



中八 ちゅうはち 貳 に 貳 に 米 こめ や 米 こめ 分 ぶん ぢやア あ 五 ご 中 ちゆう 米 こめ ありとの 柄 へい 杓 しやく ぢ ぢ 一 いち 米 こめ の  
 百 ひゃく と 二 に 穂 ほ 一 いち ところ ところ が 昔 むかし が け け け け 一 いち の の 二 に 十 じゅう 五 ご の の 米 こめ の  
 上 あひ て 貳 に 百 ひゃく 文 ぶん 本 ほん くりの の 小 せう 便 べん ぢ ぢ 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の  
 白 しろ 鹿 か 野 の 郎 らう ぢ ぢ 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の  
 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の  
 や や せ せ が 大 おほ け け 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の  
 う う 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の  
 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の

一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の  
 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の  
 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の  
 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の  
 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の  
 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の  
 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の  
 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の  
 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の  
 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の の 米 こめ 一 いち 号 ごう 一 いち の

蘇州府志

柄物ひやく一ひとのこれとんぞんませくろちうり先きたへ出いしやせ

うこえひやの中ちゆうへ延のびる小使をさるせこそそんせうらも下あまさぐり執ちく羅ら房ぼうも

早はやくせうりあい下くだまい孫まごく水公こうめもしうく

中ちゆう八はち不ふレレヤヤちちヤヤよよややせせううののひひをを孫まご次つぎええふふ最ものの残ざん

かかててけけ下くだしし例れいのの移うつ入い孫まご二にココレレそそううををくくびびくくししみみををりりふ

みみららららぞぞももううふふききここッッせせ入い急きゆう度どけけへへ七しちせせううくくハハッッ

せせううくくももねねくく小せう便べんををけけりりさされれててねねままるるりりのの孫まご二にココレレももくく

みみららららぞぞいいふふぬぬぐぐモモウウのの身み後ごへへレレおお身みががモモウウ下くだああままぐぐり

アアここばばままるるくくモモレレ着ちやく流りゆうととれれをを余あまりりおおのの由よしままるるをを美み

味あじががああままそそううぶぶちちりりとと原はらをを入いりりややささうう併あひせせりりししここ

吾われらら富とみのの物ものををささららぶぶあありり申まをせせりりままおお釣つりががあありり申まを

ろろ子こをを若わか者ものアア、あららととああくく火ひででもも小せうででももおおをを次つぎ第だい二にココレレ

おお手てをを多たがが是こゝ時ときふふ一ひと着ちやくううみみややししんん

これこれででここそそかかつつとと原はら直ちかよよくくそそくく此こゝ

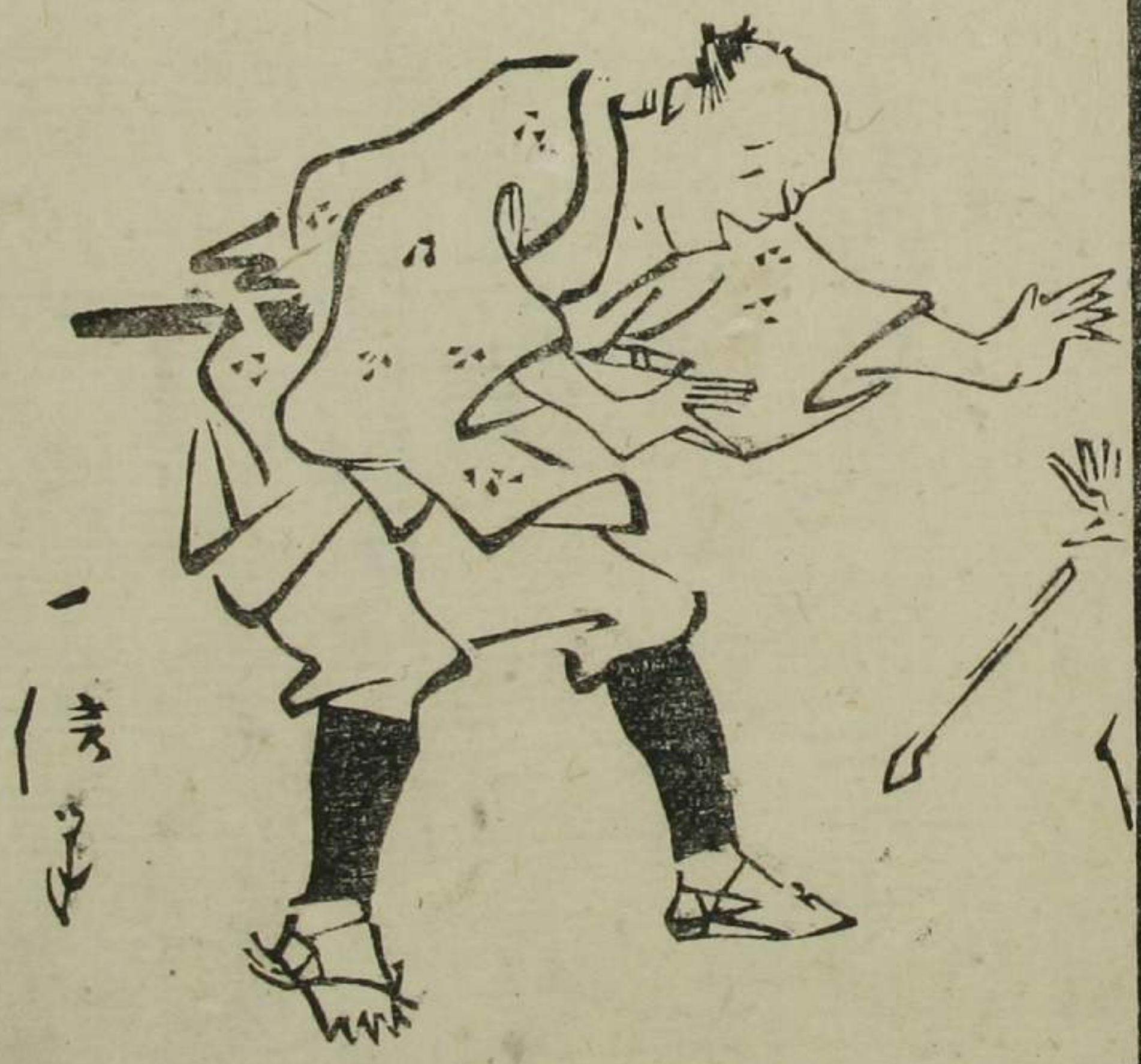
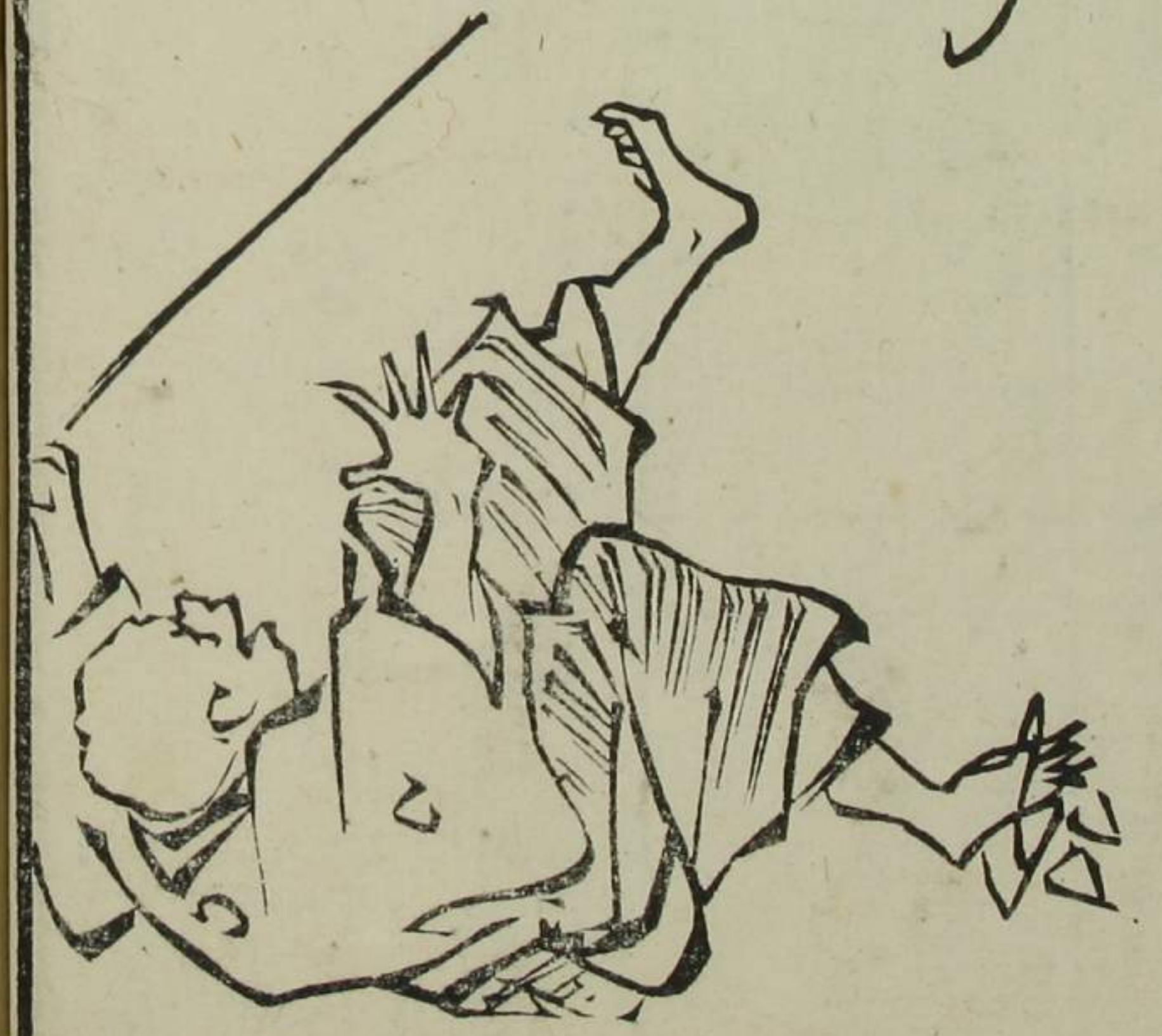
ああ中ちゆうああううちちんんをを破やぶ後ごふふししんん

若わか者ものおおりりししままくくああらら風かぜ流りゆうのの骨ほね好このむむここののああままだだららに

多岐の服をかくらひてゐるに於て別々のこれも舞の  
 徳をうけしきても同形四人の者の神鳥谷村をさく  
 小山の翁は入るとせしかりつめも話の序巻がお鞘をふりま  
 てゐるに始末をうけつて根回ひを同ひよなくとんと  
 一語のらひもあらずしつゝも同ひよなくとんと  
 せひつゝも一語もあらずしつゝも同ひよなくとんと  
 ともどもいふもつゝもいふもつゝもいふもつゝもいふも  
 方那女とていふところにてきつゝもいふもつゝもいふも

又かゝる合の真平也免とてそれうも兼うかついふお  
 ぞいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも  
 男のいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも  
 色男のいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも  
 帰るていふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも  
 多岐のいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも  
 主服して追てきつゝもいふもいふもいふもいふもいふも  
 こんとんといふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

目録  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十



一

と何れは五十五

十一

まじりのどろろもつろろわくバテどろろしむどろろト  
 うでぎとせとむらうにあらでんぐとまらくむらよりぎとろ一人あらあひ  
 きげんまきとろわふつとあこでまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
 ざらろ「エイあふせろくこのどろろをうあんのろくでろろ野  
 良めがアイタタタ」とこの國より眼明が産政よつた處  
 るとりぶがめん登るう月のく玉アどと一うろとろおつこ  
 このろくでろろめがコレ了答あんねぞヤイけ大めく  
 らのろくでろろヤアイ返答せろヤイこのめろろ野良  
 のろくでろろ野良のどろろをうよん野良ヤアイト

「ヤンくどこの産政  
 めくろよろろ一まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
 まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
 とどろ打のろろまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
 どののいおまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
 すまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
 今のろくでろろ野良のやろろかまめらららのどろろをう  
 あんもあるれ又あろろのやろろかまめらららのどろろをう  
 どろろまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

かきどくをむくろぎ一ありぐさうどぶります  
 めるこのは津切よつけても今のめくら野原のめく  
 しいウス今よえちどうをるうト  
 今の男ほどさうりて一まろころろ  
 ざうアイン子 執事ハ一す一ねろ一  
 止止の法をおがえ  
 て居るでとめろころろけつる  
 ころ一て中ハハ一大きおせと  
 小八何せろろ一てあるコレてめ  
 今又祈り

ころとれるで  
 一とぬい一まぬるサヤ一  
 一とぬい一から何ぞぬんころろめ  
 一とぬい一レころモウ祈らぬ  
 ころちが若い時かさる娘を  
 ころつらころろがあつこモウ  
 ころろとこのの  
 ころちがせんを言を吐と  
 ころちがせんを言を吐と  
 ころちがせんを言を吐と

新編 本草綱目

又思ひおぼせるよにぞう首筋りとがぞくくしてきて  
 「そんぞうとこぞで一盃氣イつけると氣が丈夫はあつて  
 多の 糸「ホニ」さるをう酒氣があつてげんきをぬぬ  
 ちよびり一盃やうかそりなアハハ「そのあつく」ッレ  
 ころがよからうト「おちく」おちぢ  
 「おうけらまといお搭ひさぬ  
 糸「とッ」えニッぞうり極あらんふくとえなせえ者へ何ぞあり  
 中を ちぢ「ハ」しく骨の青葱は沙魚お羊の白あえ石伏魚  
 の汁もどぞうりますす「ア」そのねぎふ沙魚うり、おちぢ「ハ」しく

糸「ハ」余りえん智がりのとりか面でもねく「これいあらく」  
 「このうちには」ナント「吐」のこみふ石伏魚の汁とりありのを  
 一挽つ「からり」さうちぢぢねうちぢぢ「ッ」とくごぞうり「随」分  
 けはせらるる石伏魚のぬいモ「ソ」早東相續が極  
 モ「シ」らえん石伏魚の汁をらんなせん「おち」ハ「ハ」しく  
 糸「ハ」石伏魚といふはさるさゆりみウそれく「ア」う声  
 のり蛙のりであつと上先生「お」ハ「井」出の所「蝦」ち  
 舞「も」もよむるも「シ」ト「り」あうちかどろの「おち」ぢ  
 「ハ」ハ「ハ」ぢぢり「おち」ぢ

一ツツトまごころく 時よとろよえこの石伏魚の汁ハ声  
 の葉よありやまろ移く 経二ツレ始ツごまろ何うまろ  
 ツてあぐとるあぐぞ 一ナジク 笑ハ一代まろぬハ末代  
 の恥といひやを おまろ 一おまろこの石伏魚の汁やど肥  
 持葉ハごまろまろ 一ねん 一そのつれありわてんモゴトつ  
 さんそれぢやアこの汁をニまろもニまろも食やどり  
 声が出やせう子 ねん 一あるの股でハごまろまろ 一ねん二三  
 ねんもあぐつてごまろまろ 一ねん 一肥が出るごまろ 一トク

ヲといつハうめんまんごころでねん汁が海にえごまろ  
 せん声の葉ときまろやアこてんられ移く 経二ツレあるほど 一葉の葉  
 ふ青蛙ハカむのをんあやア石伏魚の汁も声ハごまろ  
 ハ青妙ぶらうドレ 一おれもやうかごまろライとろごまろ  
 石伏魚の汁のかまろ 一ねん 一あんちよでお前がそんご  
 アふ声の葉ちよ好むごまろ 一ハテ先生もも 似合ぬハ声が  
 ようあれハ一番清元を清ツて 娘子供をまろあせると  
 のあろろまサ 経ハのこまろ 一えそののどげれごまろも









かきかき

五

十

とうやう理りの尚やう然ぜんどお八やちまけそ一いちままく 藥やく五ごおどい  
 るるモレ妹妹ニハサリく一いちちちえん中ちゆう真まうう一いち盞さん飲のむるるそそう  
 何なにぞ雞けい卵らんも燒やいてらんらんみせく拂ちりひら方ほうのこの録ろく以いさんさんが  
 金きん主しゆどかかく毒どくを文ぶん吏しよよ皆みな吞のむるるせせく一いち日にち弛ちを  
 酒さけどど遠えん急きゆうのあのササ吞のむままくくト これらの大まけとある書と  
くちゅうといふとんは  
併ひとままつつささををままつつ 妹妹ニハサリく一いちちちえん中ちゆう真まうう一いち盞さん飲のむるるそそう  
 えんぬぬが北きた八はち七しちとららのの持もちの煙えん草そう入いるる為ためてののぬ  
 秘ひかかささぐぐててききッッーーヤヤリリ一いち大だい變へんどどく一いち日にち弛ちを

むののぐぐららはは落おちておおややううももららぬぬ煙えん草そう入いるる  
 多たののふふいいふふささううののももととれれああるるふふ妹妹ニハサリく一いちちちえん中ちゆう真まうう一いち盞さん飲のむるるそそう  
 よよいいふふままるるややううるる煙えん草そう入いるる為ためてののぬ  
 宝ほう物ぶつが遠えん入いておおややんんッッーーヤヤリリ一いち大だい變へんどどく一いち日にち弛ちを  
 何なにでも金きんの遠えん入いておおややんんッッーーヤヤリリ一いち大だい變へんどどく一いち日にち弛ちを  
 一いち日にち弛ちを一いち通とお一いちておおややんんッッーーヤヤリリ一いち大だい變へんどどく一いち日にち弛ちを  
 かかくくささううるる子この推おし察さつののとと海かいり小こ判はんでで虫むしああつつこ  
 中ちゆうつつここ命いのちがが二に番ばん目めととておおややんんッッーーヤヤリリ一いち大だい變へんどどく一いち日にち弛ちを

一

一



千代五上

三

おどろくもモウ一文一延「そんなどうせも詮せうが  
 あいッ返亭 勘定のウ ああこれ おぢ「おわりのがとうり  
 ござりますすト 延てこのたまひをいゝまじくこのやを差者  
 いちどるとあとうり一人の男やあまい 頭「じが  
 おくいのあせどの身里よごう「むこおーそ大根のこま  
 ちづてくおぢらや腹「あて掉めそおラ「ちぢうのまよ  
 むらひの機こころのきイ「とヲまらて何とせづるくこま  
 きいけバパイピシヤキ「パイパイカラ「ひぢう入ん  
 ありあちどくあまぢぢ「ヨイ「いゝおぢぢぢぢ

ござりますす 延「ホンニお若い尻「お浦山「い 若者「ハエ  
 大まよふよよひま「山同形「お江戸「ア子「おぢうぢぢぢ  
 いおん 延「お江戸の生中「子若者「ア日本橋の橋の上  
 子トシタ痛み「よ「コウはのり「い 若者「今「お小山「お子  
 う橋「中「あま「さる「ごらう 延「とら「ぞ「い「月「が「有「か「と「さ  
 「有「ら「く「おめ「入「この「小「山「ざ「り「宇「都「宮「も「あ「る  
 や「ア「し「ね「入「ら「ら「おめ「入「家「が「江「戸「ッ「子「も「小「山  
 の「遊「び「や「ら「ら「ま「や「あ「ま「あ「入 延「それ「ら「ら「お「ぢ「う

七世のあそびやうと<sup>口伝</sup>傳授を<sup>秘</sup>ひて<sup>人</sup>若夫<sup>列</sup>湯<sup>の</sup>こ  
 油<sup>振</sup>合も<sup>他</sup>生<sup>の</sup>傳<sup>授</sup>道<sup>く</sup>せ<sup>し</sup>可<sup>ら</sup>ぬ<sup>也</sup>  
 その<sup>つ</sup>ア<sup>あ</sup>りが<sup>て</sup>何<sup>でも</sup>女<sup>は</sup>傳<sup>授</sup>が<sup>文</sup>て<sup>る</sup>  
<sup>善</sup>それ<sup>の</sup>ア<sup>そ</sup>う<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>が</sup>傳<sup>授</sup>が<sup>通</sup>り<sup>の</sup>  
 密<sup>ふ</sup>して<sup>進</sup>ぜ<sup>し</sup>ま<sup>せ</sup>う<sup>と</sup>それ<sup>の</sup>が<sup>い</sup>どう<sup>ぞ</sup>あ<sup>ら</sup>う  
 の<sup>こ</sup>中<sup>の</sup>中<sup>の</sup>お<sup>お</sup>ろ<sup>ろ</sup>と<sup>の</sup>用<sup>でも</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>な</sup>を<sup>さ</sup>  
 る<sup>ま</sup>ら<sup>一</sup>番<sup>の</sup>料理<sup>人</sup>を<sup>よ</sup>んで<sup>ま</sup>分<sup>は</sup>て<sup>ら</sup>る<sup>が</sup>  
 子<sup>の</sup>つ<sup>も</sup>む<sup>む</sup>は<sup>は</sup>は<sup>は</sup>を<sup>返</sup>す<sup>の</sup>か<sup>ら</sup>ぬ<sup>人</sup>

う<sup>あ</sup>れ<sup>も</sup>一<sup>ね</sup>の<sup>ふ</sup>番<sup>の</sup>ふ<sup>百</sup>匹<sup>の</sup>氣<sup>の</sup>一<sup>と</sup>傳<sup>授</sup>  
 子<sup>の</sup>善<sup>の</sup>お<sup>お</sup>ろ<sup>ろ</sup>と<sup>の</sup>用<sup>でも</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>な</sup>を<sup>さ</sup>  
 きの<sup>料</sup>理<sup>番</sup>の<sup>中</sup>の<sup>ま</sup>分<sup>の</sup>祝<sup>儀</sup>が<sup>い</sup>ら<sup>の</sup>徳<sup>の</sup>ま<sup>な</sup>  
 る<sup>う</sup>一<sup>れ</sup>秘<sup>の</sup>ア<sup>あ</sup>せ<sup>と</sup>い<sup>ひ</sup>ま<sup>せ</sup>ん<sup>その</sup>料理<sup>人</sup>あ<sup>が</sup>  
 考<sup>の</sup>も<sup>つ</sup>つ<sup>し</sup>よ<sup>う</sup>の<sup>ゆ</sup>め<sup>が</sup>損<sup>の</sup>ゆ<sup>め</sup>る<sup>が</sup>か<sup>ら</sup>  
 中<sup>の</sup>つ<sup>も</sup>む<sup>む</sup>と<sup>親</sup>方<sup>の</sup>魚<sup>を</sup>切<sup>ち</sup>ら<sup>う</sup>て<sup>食</sup>る<sup>の</sup>魚<sup>の</sup>  
 せ<sup>し</sup>て<sup>お</sup>ろ<sup>ろ</sup>と<sup>の</sup>用<sup>でも</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>な</sup>を<sup>さ</sup>  
 と<sup>し</sup>つ<sup>つ</sup>み<sup>り</sup>ん<sup>ぢ</sup>や<sup>ア</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>な</sup>を<sup>さ</sup>







野良ももが何で質種よあるりのう ゴニヤ ヤサウ モ イ  
まぬ人質とりふるを ま い て わ る 者 ハ テ そ れ の 調 法 を  
人質せらる店があるあううが お う ろ を 置 て 一 晩  
遊て入りんご 「 その の 妙 ご お ま り も ち ち と な り 又 う り  
を さ ま て と れ を 随 分 世 活 を し て と れ を あ う と う や も  
し わ う あ り ご を み く シ テ ま の い は ら り か る つ め り ご  
 「 い くら と り つ て 望 も ぬ う と う 「 七 十 六 ふ ろ が 一 年  
 十 五 六 と し て も 七 十 六 あ の う ら れ る 「 ら う ら が そ い

い い く 奉 公 人 ご の う そ 力 さ る 曲 物 より 素 後 一 「 が  
 よ ら う 者 の ハ ッ そ の う 年 一 の 百 兩 「 そ れ ご お 是 の そ の  
 う ち を 幾 計 と し て 「 お 前 を 判 人 が ま り お 世 活 を 掛  
 る う 「 一 割 と し て 拾 あ ハ 「 お も ろ 強 欲 な る 「 成 の ひ さ さ ん ら  
 百 兩 の 持 公 人 に 拾 あ る 「 い が あ る 「 の う 地 面 の 賣 買 で も  
 二 分 「 あ う 前 ご は こ れ 「 強 ご 「 り の く 持 公 人 の こ 「 ご  
 か う 三 割 と し て 三 拾 あ く 「 者 者 「 い や く そ れ ご の 金 が 「 「 り ぬ  
 母 人 の 身 付 も 十 五 あ も り 「 ハ テ そ れ 「 田 舎 は 「 似 合 ぬ

予ん也<sup>とむらひ</sup>を葬式<sup>いんぎ</sup>の子<sup>きんぎ</sup> 延喜<sup>いんぎ</sup>でもあひ<sup>いんぎ</sup> 誰も<sup>たれ</sup>死<sup>し</sup>ふ<sup>せ</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>
  
 それでもあ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>ろ<sup>ろ</sup>の死<sup>し</sup>金<sup>かね</sup>が十<sup>じゅう</sup>五<sup>ご</sup>ある<sup>ある</sup> 當<sup>あた</sup>て<sup>あて</sup>る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>さ<sup>さ</sup>と<sup>と</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>
  
 あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>若<sup>わか</sup>者<sup>もの</sup>馬<sup>ま</sup>麻<sup>ま</sup>なる<sup>なる</sup>十<sup>じゅう</sup>五<sup>ご</sup>ある<sup>ある</sup> 葬<sup>まう</sup>公<sup>こう</sup>人<sup>にん</sup>の男<sup>おとこ</sup>行<sup>ゆき</sup>ざ<sup>ざ</sup>り<sup>り</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>
  
 一<sup>い</sup>それ<sup>それ</sup>て<sup>て</sup>百<sup>ひゃく</sup>両<sup>りょう</sup>の<sup>の</sup>身<sup>み</sup>公<sup>こう</sup>人<sup>にん</sup>のお<sup>お</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>ろ<sup>ろ</sup>さ<sup>さ</sup>ん<sup>ん</sup>子<sup>こ</sup>若<sup>わか</sup>者<sup>もの</sup>
  
 身<sup>み</sup>さ<sup>さ</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>が<sup>が</sup>は<sup>は</sup>天<sup>あま</sup>方<sup>かた</sup>そ<sup>そ</sup>ん<sup>ん</sup>お<sup>お</sup>と<sup>と</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>
  
 夫<sup>おつ</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>お<sup>お</sup>つ<sup>つ</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>お<sup>お</sup>れ<sup>れ</sup>で<sup>で</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>入<sup>い</sup>り<sup>り</sup>を<sup>を</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>ら<sup>ら</sup>ー<sup>ー</sup>ど<sup>ど</sup>く<sup>く</sup> 早<sup>はや</sup>く<sup>く</sup> 洵<sup>しん</sup>
  
 つ<sup>つ</sup>いて<sup>いて</sup>夫<sup>おつ</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>お<sup>お</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ト<sup>ト</sup>ま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>て<sup>て</sup>お<sup>お</sup>ハ<sup>ハ</sup>い<sup>い</sup>急<sup>いそ</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>で<sup>で</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>

奥羽 道中膝栗毛第五編上巻 畢 一覽

無